

# 道徳学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 6 日 (金)

学 級 1 年 A 組 (男子 13 名 女子 14 名 計 27 名)

授業者 田毛 亜紀

## 1 主題名 命を見つめ命を支える【3－(1) 生命の尊重】

## 2 資料名 「決断！骨髄バンク移植第一号」(出典『中学道徳1 明日をひらく』東京書籍)

## 3 主題設定の理由

### (1) 価値について

本時の授業は、内容項目 3－(1)「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」ことを目指すものである。

本校の中学生は、4 年前の東日本大震災を経験し、生きていることのありがたさを体験を通して感じ得た世代であり、「命は大切」であることを理解している。しかし、時間の経過とともに復旧が進み、食生活をはじめとする生活環境が整った中で、命の大切さを実感する感覚は薄れている。これから生きる中学生にとって、生命の尊厳に気づき、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念を持つことは、生きていくうえで必要不可欠なことである。

そのような中学生にとって生命の尊厳に気づく心情を育むためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることが大切である。そのうえで命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとする態度を育てたいと考え、この主題を設定した。

### (2) 生徒について

本学級の生徒はこれまでの活動を通して、学級としてのまとまりが生まれつつあり、明るい雰囲気を持ったクラスである。しかし、トラブルがあったときに、命を粗末にするような軽率な発言がよく聞かれ、また、保健体育の授業で AED を用いた心肺蘇生法の学習を行った際には、生命救助に係わる話を真剣に聞くことができない姿や、実習中にふざける姿があり、生命の大切さを頭ではわかっているはずだが、言動が伴っていない様子も見られた。

そこで今回、本教材の学習を通して、命の大切さやありがたさについて深く考えさせたい。生きていることのありがたさに深く思いを寄せることで、自分以外の命も同様に考え、自他の生命の尊重に努めようとする態度を養いたい。

### (3) 資料について

本資料は、「骨髄バンク」設立時のドナー登録者の葛藤を描いた実話である。

骨髄移植によって白血病患者の命を救うために、日本でも「骨髄バンク」の組織をつくりだそうとボランティアの会員たちが奮闘する中、一人のドナー登録者が、血液の適合を告げられた。恐怖、使命感、手術が近づく中、心は揺れた。そして、ついにその決断によって、日本初の骨髄バンク登録者による移植手術が成功する。数年後に出会った患者とドナーは、がっしりと手を握り合い、固い握手をして抱き合う。テレビ番組「プロジェクト X」を資料化したものであり、白血病患者の命を救うか

けがえのない制度である骨髄バンクの設立と、日本初の移植手術を行ったドナーと患者のドラマである。

本時は、主人公が提供を決断するまでに心が揺れ動く理由について考え、それでも提供を決断した主人公の心情に気づかせたうえで、骨髄提供をできるかどうか自分自身に置き換えて考えることを通し、生徒自身の「命」に対面した時の心の揺れを引き出したい。そして、患者との出会いを通して、自他の生命の大切さを実感した主人公の心情を考える中で、命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとする態度を養いたい。

#### 4 他の教育活動との関連と補充・深化・統合の視点

生徒はこれまで、各教科の授業をはじめ、学校生活の中で生命の大切さを理解してきている。特に先日行われたAEDを使った心肺蘇生法の講習会を通し、生命の尊さや、人の生命を救うための知識を得ている。また、学校での避難訓練では、災害時には自分の命を守ることを考えて行動する大切さについて考える機会も積み重ねてきた。さらに、日常生活では、定期的実施している交通安全教室や日々の声かけにより、自転車に乗る際には命を守るためにヘルメットの着用率が高い。

このように、ある程度理解している「命の大切さ」が、今回の授業でより自分のものとして捉え、今後の日常生活に生かしていけるように指導していきたい。

本時は、これまでの授業、行事体験や日常生活、過去の経験と自己とのかかわりについて深化を図る視点で行っていきたい。

#### 5 本時の指導

##### (1) ねらい

「田中さん」の心情を考えることを通して、命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとする態度を育てる。

##### (2) 本時の評価

道徳的実践 意欲・態度	命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとしている。 <b>【生徒の記述例】</b> 今日は自分の命や他の人の命の大切さについて考えることができました。臓器提供は自分にはできないかもしれないけれど、自分の命もみんなの命もたった一つしかないものだから、命を粗末にしないことが何より大事だと思いました。今日の授業で考えたことを忘れずに、生きていることと支えてくれる人に感謝しながら、自分の命もほかの人の命も大切にしていきたいです。
----------------	--

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問 ◎：中心発問	期待する生徒の反応	留意点・評価
導入 3分	1. 「骨髄提供」についてのアンケート結果を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人として、困っている人を助けることは当たり前だから。</li> <li>提供したいけれども、やっぱり怖くて無理だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の考えを受容する。</li> </ul>
展開     3分	<p>資料を読む。</p> <p>2. 資料のあらすじを確認する。</p> <p>3. 「田中さん」の心情について考える。 最後の検査の日、病院に向かう足取りが重かった時、どんなことを考えていただろうか。</p> <p>4. 「田中さん」の心情について考える。 ◎迷っていた田中さんが、骨髄提供をする決断をできたのはなぜだろうか。</p> <p>5. 「田中さん」の心情について考える。 田中さんと橋本さんが、がっしりと手をにぎり合い、固い握手をしてくいたとき、田中さんほどんなことを考えたのだろうか。</p> <p>6. 自分の「命」について考える。 今までに「命」ということを感じた経験はないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>また痛い思いするのか、やめたいな。(－)</li> <li>だれかわからない人のために提供する必要があるのだろうか。(－)</li> <li>子どもにやると言ってしまったからな。(±)</li> <li>本当に大丈夫だろうか。(±)</li> <li>人の役に立つことだからやらないと。(＋)</li> <li>命は大事だから助けないと。(＋)</li> <li>自分が他人の命を握っているということに気づき、その命を握りつぶすことは自分には出来ないと思ったから。</li> <li>自分が提供することで、一人の命が助かると思ったから。</li> <li>自分の子どもの顔を思い出し、自分の子どもの命も、提供する相手の命も、どちらの命も同じように大事なもので、助けなければいけないと思ったから。</li> <li>勇気を出してよかった。人の命に代えられるものはない。自分も相手も生きて喜び合えてよかった。</li> <li>橋本さんのおかげで生きている喜びを知ることができた。橋本さん、ありがとう。</li> <li>自分の命をこれからも大切にしていけば、また誰かの命を救えるかもしれない。</li> <li>家族（自分）が病気などで入院した時</li> <li>東日本大震災で親戚（自分）が被災した時</li> <li>弟や妹が生まれた時</li> <li>家族（ペット）が亡くなった時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師による範読</li> <li>主人公の迷いの理由について考えさせる。</li> <li>主人公が迷うことについてどう思うか、主人公と同じ決断ができるかどうか考えを出させる。なぜそう考えるのか理由をあげさせる。</li> <li>自分が他人の命の運命をにぎっているという事実を、繰り返し発問で補いながら捉えさせる。</li> <li>行動の是非ではなく、決断した理由から命の大切さに迫りたい。</li> <li>やってよかったと考える生徒が多いと予想される。そう考える理由についても、共感的に発言内容を広げ、価値を果たした主人公の喜びに触れさせる。</li> <li>自分の身近な「命」について、価値について考えを深める。</li> </ul>
終末  10分	<p>7. 価値について考えたことを書く。 ・考えたことを交流する。</p> <p>8. 映像資料を見る。</p>	<p>今日は自分の命や他の人の命の大切さについて考えることができました。臓器提供は自分にはできないかもしれないけれど、自分の命もみんなの命もたった一つしかないものだから、命を粗末にしないことが何より大事だと思います。今日の授業で考えたことを忘れずに、生きていることと支えてくれる人に感謝しながら、自分の命もほかの人の命も大切にしていきたいです。</p>	<p>【道徳的実践意欲・態度】 命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとしている。</p>

(4) 資料分析表

主題名	命を見つめ命を支える	資料	決断！骨髄バンク移植第一号	
本時のねらい	「田中さん」の心情を考えるを通して、命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとする態度を育てる。			
主たる場面	主人公の心の動き	指導の意図	発問 ◎：中心発問	期待する生徒の反応
最後の検査の日、重い足取りで病院に向かう田中さん。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の役に立とう。</li> <li>・つらい思いをして提供するのに、相手のことはなにもわからない。</li> <li>・仕事が手につかない。</li> <li>・母親に反対された。</li> </ul>	<p>「提供します」と言ったものの、検査のつらさや、家族のこと、移植の難しさにふれながら、主人公が迷う理由（弱さとの葛藤）について捉えさせる。</p> <p>主人公の行動に対する道徳的判断をさせる。立場を選択させる《補助発問》を通し、理由を説明させることで、主人公の葛藤を捉えさせたい。</p>	<p>最後の検査の日、病院に向かう足取りが重かった時、どんなことを考えていたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また痛い思いするのか、やめたいな。(－)</li> <li>・だれかわからない人のために提供する必要はあるのだろうか。(－)</li> <li>・子どもにやると言ってしまったからな。(±)</li> <li>・本当に大丈夫だろうか。(±)</li> <li>・人の役に立つことだからやらないと。(＋)</li> <li>・命は大事だから助けないと。(＋)</li> </ul> <p>《補助発問》</p> <p>【よくない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の命を助けるのは人として当然だから。</li> <li>・自分が提供しなければ相手の人は死んでしまうから。</li> </ul> <p>【しかたない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり怖い。 ・痛いのは嫌だ。</li> <li>・死んでしまうかもしれない。</li> <li>・他人のためにそこまでできない。</li> </ul>
決心を固めた田中さん。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が大事な命の運命をにぎっている。だれの命であれ、にぎりつぶすことなどできない。</li> </ul>	<p>自分や相手の家族のことを考えた末の主人公の決心と、自分が他人の命の運命をにぎっているという事実をしっかりと捉えさせる。</p>	<p>◎迷っていた田中さんが、骨髄提供をする決断をできたのはなぜだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が他人の命を握っているということに気付き、その命を握りつぶすことは自分には出来ないと思ったから。</li> <li>・自分が提供することで、一人の命が助かると思ったから。</li> <li>・自分の子どもの顔を思い出し、自分の子どもの命も、提供する相手の命も、どちらの命も同じように大事なもので、助けなければいけないと思ったから。</li> </ul>
がっしりと手をにぎり合い、固い握手をしてだき合った田中さん。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋本さんが元気で生きてくれてよかった。</li> <li>・自分のしたことは正しかった。勇気を出してよかった。</li> <li>・橋本さんのおかげで生きていく喜びを知ることができた。ありがとう。</li> </ul>	<p>自分が生きていくことで他の人を生かし、他の人が生きていくことで自分が生かされているという、命の大切さやありがたさを再認識した主人公の思いを捉えさせる。</p>	<p>田中さんと橋本さんが、がっしりと手をにぎり合い、固い握手をしてだき合ったとき、田中さんはどんなことを考えたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勇気を出してよかった。人の命に代えられるものはない。自分も相手も生きて喜び合えてよかった。</li> <li>・橋本さんのおかげで生きていく喜びを知ることができた。橋本さん、ありがとう。</li> <li>・自分の命をこれからも大切にしていけば、また誰かの命を救えるかもしれない。</li> </ul>